

さいたま市立病院だより えがお

Vol.48

小児科の紹介



糖尿病・甲状腺疾患などを中心に診療しています。アレルギー疾患については濱畑医師と鑑医師が食物アレルギー・喘息などを中心に診療しています。学校心臓三次検診や先天性心疾患については玉目医師が診療を担当しています。さらに、当

小児科は2022年7月現在、常勤医8名、専攻医4名の12名体制で診療しています。常勤医は天野医師（部長）、玉目医師（科長）、下山田医師、一色医師、濱畑医師、鑑医師、市川医師、小松医師です。

小児は新生児期・乳幼児期・学童期・思春期と成長・成熟・発達します。小児科診療では、その成長・発達過程により扱いうる疾患や診療内容が大きく変化していきます。また、小児科の専門分野は救急疾患、感染症、神経・発達、内分泌（成長・成熟）、先天性心疾患、免疫・アレルギー疾患、腎疾患、血液・腫瘍、精神保健など非常に多岐にわたります。

さいたま市立病院小児科では、前々小児科部長の佐藤医師の専門分野である内分泌、前小児科部長の明石医師の専門分野であるアレルギー疾患について現在も専門性の高い診療を継続しています。内分泌については天野医師と小松医師が担当し、低身長・思春期早発・

院は小児がん連携病院として、血液・腫瘍疾患を専門分野とする一色医師が中心となり、埼玉県立小児医療センターと連携をとりながら白血病の化学療法や神経芽腫の免疫療法を行っております。

このような専門性の高い診療と並行して、さいたま市が運営する唯一の公立医療機関として市内および近隣の市の二次救急医療を担っています。虫垂炎や腸重積などは当院小児外科医3名と連携しながら、外科的対応も速やかに対応できる体制をとりながら救急診療をしています。

また、当院は小児科専門医研修基幹施設かつ連携施設であり、専攻医9名が当院新生児科、慶應大学病院、国立病院機構埼玉病院、埼玉県立小児医療センターをローテートし、当院小児科には4名が配属されています。このように小児科医を育成する役割も担っています。

▶▶ ドクターカーの運用を始めました ◀◀

当院では、令和4年6月1日から、救命救急センターにおいてドクターカーの運用を始めました。そこで今回は、ドクターカーについてご紹介します。

▶ドクターカーとは

ドクターカーとは、ケガや病気の119番通報を受けた消防機関（指令センターや現場の救急隊）からの要請などにより、患者さんのいる現場に医師や看護師が急行するために使用する自動車のことです。



当院のドクターカー

▶ドクターカーのメリットは

ドクターカーを運用することにより、医師や看護師が、患者さんのご自宅や患者さんを医療機関に運ぶ救急車の中など、より早い段階で適切な治療を行うことができます。

それによって、患者さんの救命率（心拍と呼吸が回復し、意識が戻る割合）を高めたり、後遺症を軽くしたりすることができるものと考えています。

▶一人でも多くの方を助けたい

ドクターカーは、安全に運用することが何よりも重要です。

救命救急センターのスタッフは、事故なく安全にドクターカーを運行できるように、また、患者さんに最も適切な治療を行えるように、訓練を重ねてきました。

当院では、ドクターカーの導入によって救急医療体制を強化し、一人でも多くの方の命を助けられる

よう、また、病気やケガを負う前の日常を取り戻していただけるよう、スタッフが一丸となって取り組んでまいります。



訓練の様子

▶ドクターカーQ&A

- Q1 ▶ どんなどきにドクターカーが来るの？**
A1 ▶ 119番通報の中で、「胸が痛く、冷汗をかいている」、「倒れるところを見て、意識も呼吸もない」、「多重事故」など、重症と推定されるキーワードがあった場合に、消防機関からの要請で出動します。
- Q2 ▶ ドクターカーで患者さんを運ぶの？**
A2 ▶ 当院のドクターカーは、患者さんを運ぶベッドを備えていません。患者さんは救急車が運び、医師や看護師は、現場や救急車の中で治療を行います。
- Q3 ▶ どんなどものを載せているの？**
A3 ▶ 除細動器や超音波診断装置（エコー）などの医療機器、酸素ボンベ、点滴を行うための器具や外科的な処置に使用する器具、様々な薬剤などを搭載します。



色々な症状に対応できるようトランクいっぱいの医療機器や医療器具を載せていきます

さいたま市立病院旧病棟解体工事について

旧病棟の解体工事を令和3年12月14日～令和5年4月14日の工期で進めています。

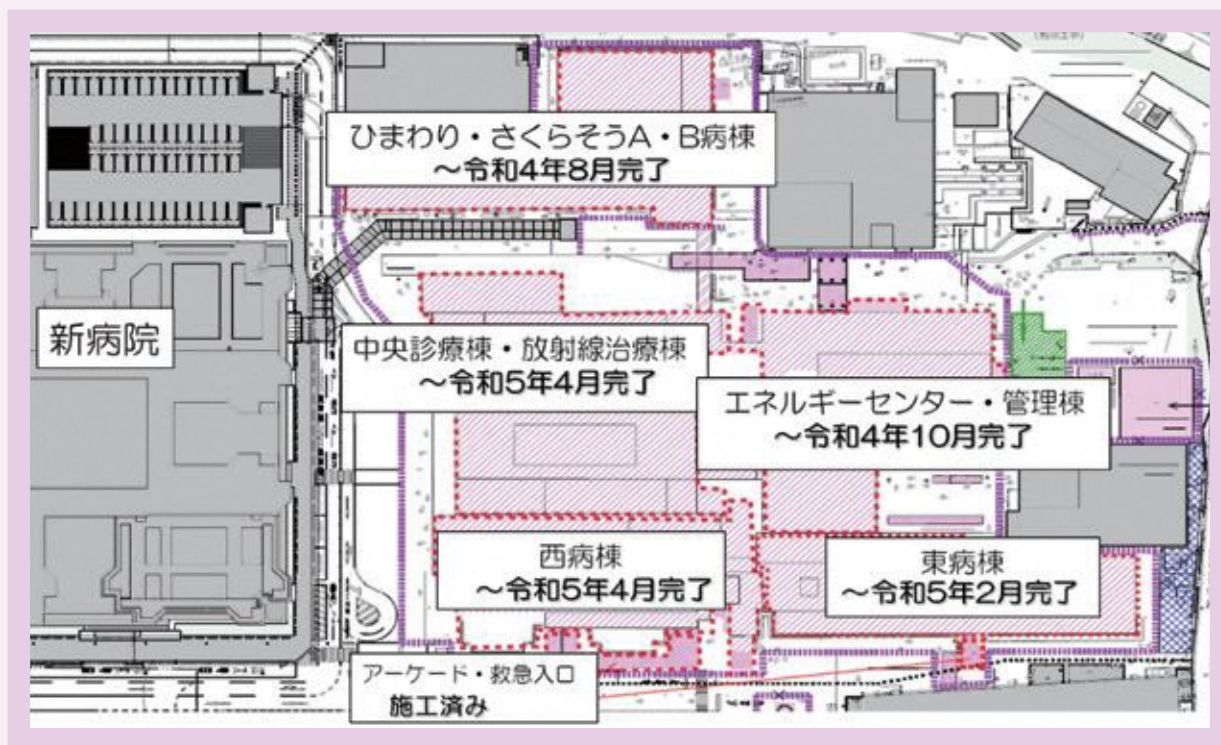
令和4年6月末で敷地北側の「ひまわり・さくらそう病棟」の上屋解体工事が完了しました。

解体工事後、外構工事を実施し、平面駐車場の整備をします。



(令和4年6月27日撮影)

各建物の解体スケジュール



新任医師の紹介



救急科 科長
阪本 太吾

ドクターヘリ、ドクターカーなどの病院前診療、外傷診療、集中治療、国際緊急援助隊、DMATなどの災害医療を行ってきました。地域の医療に貢献できたらと思います。

趣味又は座右の銘 剣道




新生児内科 医師
草川 萌

埼玉の周産期医療に貢献できるよう頑張ります。

趣味又は座右の銘 ラジオを聴く

新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いします

 外来及び救急外来については、
感染防止を徹底し通常通り診療を行っております。
ただし、発熱や風邪症状がある方は
職員までお申し出ください。



発熱



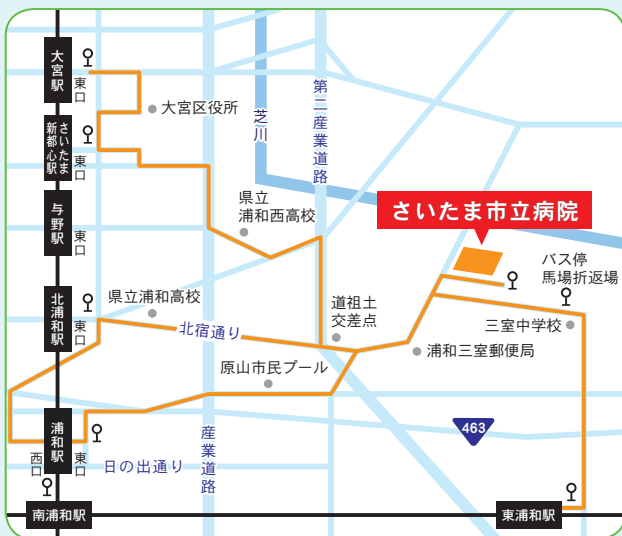
風邪の症状

 ご来院の際はマスクの
着用をお願いします。



 面会を原則禁止とさせて
いただいております。

面会は、入退院時、病状説明時、手術当日など、医師
または看護師からご連絡させていただいた場合に限りさ
せていただきます。また、洗濯物等
の受け渡しでご来院の際は、病棟
入口のインターフォン外側で対応
いたします。



さいたま市立病院
住所 : さいたま市緑区大字三室2460
電話 : 048-873-4111
ホームページ : <https://www.city.saitama.jp/hospital/index.html>

発行: さいたま市立病院 発行者: 院長 堀之内 宏久

アクセス

- ・JR「北浦和駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 15 分)
- ・JR「浦和駅」から
東口 国際興業バス「南台」行き「市立病院」下車(約 20 分)
西口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 25 分)
- ・JR「さいたま新都心駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 30 分)
- ・JR「東浦和駅」から
国際興業バス「馬場折返場」行き 終点下車(約 15 分)、
下車徒歩 5 分
国際興業バス「市立病院」行き 終点下車(約 20 分)
- ・JR「大宮駅」から
東口 東武バス「さいたま市立病院」行き 終点下車(約 40 分)



※この印刷物は1,200部制作し、1部あたりの印刷経費は62.7円です。